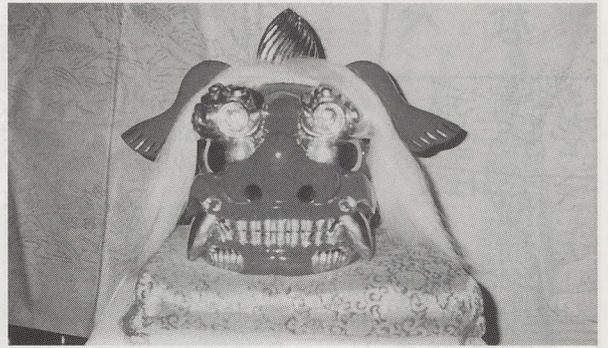


探訪 チャレンジ企業 8

創造性に向って挑戦 中島町・石島美術彫刻工房



もの作りは、昨日より今日、今日より明日へと、より良いものを作りたいという意気込みで作られる。それ故に数々の工夫がなされ技術が磨かれ、創造性へと繋って行く。これがまた新製品の開発となるのである。もの作りにこだわる職人は、修業して得た技術を存分に発揮し、より優れた製品を作るが、修得分野以外に余り手を広げることをしてしない。かかる中で、中島町笠師にある石島美術彫刻工房は、技術を活かす範囲を拡大し続けているチャレンジ工房である。

挑戦の範囲

ご主人石島精昭さんは、彫刻を手掛けてより四十数年。今では名刺に、神社・仏閣・

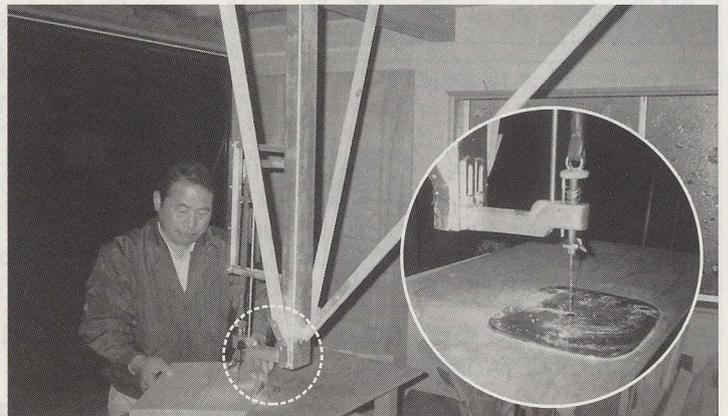


マルチな才能を発揮する石島精昭さん

らんま・仏壇・獅子頭・書院・衝立・額・神棚・各種製作とある。こと木に関し総て取り込んでいる。その他塑像づくり、漆塗り、箔押しまで手掛けるので、本当の専門は何かと聞かれるても、即座に一言で言えない程である。正にマルチもの作り人間といえる。

特許をとった道具づくり

職人は、使用する道具を自分で作り変えるのが常である。これが良い製品づくりとなり、職人の誇りとなる。最



石島さんの使う糸鋸機にはアームがない

近手掛けた道具づくりの最たるものに糸鋸機がある。従来の糸鋸機は、アームがあり、アームの長さの範囲しか作業ができず、このため長尺物の透し作業に全く不能であった。これに対し発想の転換でもってアームをなくし、代りに天井から下げた支柱で糸鋸の上下運動を支えるようにしたので、長尺物の透し作業が自由に行なえるようになり、作業の効率化ときれいな仕上がりを実現した。そして糸鋸の新改善部分に特許を得たのである。

技術と人間関係

人は良い技術に引かれ、良い技術は人を結びつける。技術がもたらす人間関係は強い信頼関係に変って行く。石島さんの生き方は、正しくこの通りである。一般に職人が陥りがちな狭い世間渡りは、石島さんには無用である。地元小学生やご婦人達に木彫りを指導し、積極的に地域の人々と交流を進め、よき人間関係と信頼を得ている。

独自性と創造性

石島さんの製品は、すべて、独自性が貫かれている。それは、創造性に徹するという姿勢の発露といえる。この創造性は、恩師の教えをわが信条として守り続けているところに根源がある。従って常に新しいことに敢然と立ち向い挑戦し続けることができるのである。石島さんは時代の転換期に対処できず廃業して行く職人とは、全く対照的である。独自性の発揮こそ生き残る唯一の方法であれば、石島美術彫刻工房は、最も有望な存在である。更に新しい分野に進出が期待される。

(お問い合わせ)

石島美術彫刻工房

〒九二九-1223

石川県鹿島郡中島町字笠師ハの部一〇

☎(〇七六七)六六一六四四

◆営業品目◆

神社・仏閣・らんま・仏壇・獅子頭・書院・衝立・額・神棚・各種製作

この新コーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会をお訪ねください。